



新古今和歌集

上二

特 別
~4
8062
2





君代のうらなと白曲のゆらゆらとまじりて
亭子院乃六十門頓屏風よふかつらとら
とらとゆら

若菜摘のやうらと長つち代あつてつまんとら
延長河時屏風

若ふをいさかきとけして芝川のあわのふらうら
祐子門親は家とらゆら
土河門右大長

君代はあつちまのおふらとらとらとらとらとら
七条乃きさいのふの六十頓屏風

伊勢

任の江乃濱のゆらとらとらとらとらとらとら

延長河時屏風 貫之

若ふをいさかきとけして芝川のあわのふらうら

延長河時屏風 貫之

若ふをいさかきとけして芝川のあわのふらうら

具凡

山川のきくわらと水いさかきとけして人のあつて

延長河時屏風 貫之

いさかきとけして芝川のあわのふらうら

又治六年女御入内降凡

皇太后天皇後成

山人のわろ袖ありききり病うらつたはと子代いぬぬせ

貞信云家降凡 信原元輔

神女月みらもろぬとた本ふ可代かまみひりり雲

おしらた 任勢

心せらゆきとわもろと波のよるういもひんぐーるをり

後一系院うまはをなまうろろ九月はさくぬ

かりりろお久二系因白申およけりりるにまろこ

人こさうひそく比乃のよのせてな。ーぬり

松けいぬたかどくそけりりれと

深武部

くろりかきよとせにとめろ水乃面うやれ月けとれせ

永養四年内裏奇合よ池水とらふと

任勢太補

いさ水のよたにいさうくそとわさいうこれまもむりそり

堀川院乃大尊舍御襖目ゆるうてそお目よ

かりとてやうさくくゆろとハ紀任典約しりけれ

六系右左

あつ代のちとせのんしからまわくろぬ元のいろとそみる

元禄四年皇太后之命 御前合し 祝のふ成を修り
くか 前大納言隆國

とみの伊勢守松の枝に ちよとせのふりこも
寛治八年 皇太后太政大臣 陽院御前合し 祝
乃ら成 康資主母

美成松のおふりとも ちよとせのふりこも
後次泉院おとけおひきり ちよとせのふりこも
人乃ちよとせのふりこも ちよとせのふりこも

大武之位

あひとせのふりこも ちよとせのふりこも

永保四年 御前合し 祝のふ成を修り

大納言経信

子のひきりみここのふりこも ちよとせのふりこも
子目けりちよとせのふりこも ちよとせのふりこも

大納言通俊

子目けりちよとせのふりこも ちよとせのふりこも
兼曆二年 御前合し 祝のふ成を修り

大納言通房

子のひきりみここのふりこも ちよとせのふりこも
子目けりちよとせのふりこも ちよとせのふりこも

大納言通房

子のひきりみここのふりこも ちよとせのふりこも
子目けりちよとせのふりこも ちよとせのふりこも

二條院御時花を喜みとらん成人くはる
まうりくろり

刑部錦花兼

あつ代よあつりまもしうけむ花いあしとつりまうり
ふり御時南敷の花のありに可あくをあせ
らまうり花

糸川門侍

あよして花をけしうけ代いあつりまのうりまうり
百首奇まうり時

武子門親王

あつ代ためくじまあつりあつりまうりあつり
系極殿まうりあつりあつりまうり

松を喜みあつりあつりあつり

攝政太政大臣

あつりあつりあつりあつりあつりあつり
百首奇まうり時

あつりあつりあつりあつりあつりあつり
千五百首奇あつり

あつりあつりあつりあつりあつりあつり
いあつりあつりあつりあつり

皇太后天皇後成

あつりあつりあつりあつりあつりあつり
あつりあつりあつりあつりあつりあつり

おどろく海の事のことありよれりすよる人おどろく守
家し奇合し傳りるに喜祝の心成るに傳り

坊政大政を長

是日山を歩みぬみちを思ふ山のちるるを喜しあり

五層門時大尊會自奉傳中圓中山

法人本心

とてありきひの中山をりりるるを松のちるるを

長和八年大尊會悠紀方屏風近江圓朝日御

系皇捕親

あつた約日のちるる日けりるるのあつるるにほ

永兼元年大尊會悠紀方屏風近江圓朝日御

をりり

武部大捕資業

とてありきひの中山をりりるるを松のちるるを

寛和二年大尊會悠紀方屏風近江圓朝日御

系中初之區居

とてありきひの中山をりりるるを松のちるるを

久寿二年大尊會悠紀方屏風近江圓朝日御

山成りあり

文内卿永範

とてありきひの中山をりりるるを松のちるるを

平治元年大尊會悠紀方屏風近江圓朝日御

野とあり

刑部卿花兼

大いにあていしむれどもとてみらあつふはとあひよくりか

仁安元年大葦舎會悠紀奇なりくらし稲春奇

皇太后天皇後成

あつむあつこのいねとけつそふらあつは代のりあまつ

寿永元年大葦舎之基方稲春奇丹波國也

田村とあり

権中納之兼光

外代もあつこのあつやつりあつこのいねあひあつ

建久九年大葦舎悠紀奇喜好也

式部大輔光花

えいれいしりあつり水も乃喜好のふ乃松れ夕乃松

お好大葦舎之基方屏風は六月松井

権中納之資實

えいれいしり松井の水紙しりあつりつりあつり代り

新古今和歌集卷第八

哀傷奇

題不知

僧正遍昭

息乃病もこのつやうの申れと云はれらるなりぬらん

小野小町

あつちかり秋方のそよ海をりつわよけれ乃の庭をぞつ

醜形のみとぞれ終て乃ちやうひれつこもりよ

三条右大臣にけりけり

中納言兼捕

橋らつる風流のあまなりあゆむと云はれらるなりぬらん

正暦二年諫書乃言さうれ板よきそ道は

羽たつてけりけり

実方卿下

あつちかり秋方のそよ海をりつわよけれ乃の庭をぞつ

延

后信朝下

あつちかり秋方のそよ海をりつわよけれ乃の庭をぞつ

やうひの一人よとぞれ終て乃ちやうひれつこもりよ

けりけり

成尋法師

花さうりまこさうりまらふと云はれらるなりぬらん

人の橋とてと云はれらるなりぬらん四月ふくむなり

よき又れしつてむのさたあつとて

大正新言

花んとうきん人もかま宿の橋がよれまを所へ
せしあまは侍りたる女れあはうにたる四十九日
そり紙の里よこりあてし侍りけれ

大東大支那補

多道とこれのやにたりしそいひりあつて
あ守却下母身侍りてわりのまは金剛院の
花とて
後徳大寺大長

ふかそいひつらうそまわつたを思ふ人しきれ

定家下母れおひし侍りけりまはれよはつ

つけれ

横政右政大長

まはしきあしそれあひるまは紙の侍りれあまのまり
前大納言光頼の身侍りたるつたつたつた
よそかくして侍りけれ

大正新言

まはりの煙紙をたきあふまにゆふまはあまの
六条横政から侍りてはうし侍り侍り侍り
丹のまはて侍り侍り侍りて女房れまはつと
はつり侍りまはつ

太宰大貳重家

かろんそそふさけさけあつとまふさつとせむいぬん
おさかふこねうせたりううとれそりうわ
めとてふとゆり

高陽院本綿田子

わやめま雅志のてうとてたてふと銘とて乃あきん
かけくしゆりうは又月又日くろくく
りーくろく

上西門院名備

ふまはあやもさふたふむじとさつ移のこて
近清院かくれふふたねいゆとじとておら又月

又月自赤門院

九条院

わやめま志こたりくろ移よの青とあつ移りりり
返

自赤門院

さとしういおさ一たしものえさうめううぬ移成とまてら
そんゆりきり女たくなりになりくろ友原為親
お下妻えぬりになりよつりけれ

小野美右大臣

よたらしとおさ一ゆりうしと男たねいりあねい
返

友原為頼お下

ひかりにそわぬ思ひのたれ人もたひのまゝやうらん
小武船門侍病をたう病ありうらむやぬを
まて侍りける紙巻侍りておらと東門院よ
こもつ子を給けるよそまつりて

和泉武部

とそりしあそむるうらむて侍り人よあはた

らむ

と東門院

思ひをうらむとたし袖のうら病をたひぬ物

白川院御時中交わりのまそをたれあは

まのまそりて侍りけるに七月七日のあ

そり侍りけるは

周防門侍

あそり原うらむと侍りまはたの病をうらむ

二品實子肉親まにあひて首のうらむ

してまそ侍りける

女侍御子女

袖しえ杖の夕魚のまそ侍りあはたの病をうらむ

まそ侍りけるまそ侍りてあはたの病をうらむ

と東門院中交わりのまそ侍りける

一条院御奇

秋也乃病の申りに長衣とてらうとてわろし
膝乃らわおさりまふとくれる人

大戴之位

も通けしなみれ袖とてぬよとたやう後秋の夕
也

徳人不知

とれうら病とてふ消とて海ふのとうさうじ
廣義公乃たりなりて乃らとてかんととて

徳信公

女帝花乃らとてふたくとていひしれ秋う
彈正尹為高親とてとてわけてたり

和泉式部

祢さめとら力とてとてに風のそと成者袖
後一位師子かたれたりて宇治より新少将
とてふつりりり 和泉院入念国白太政大臣

袖乃ら病とてら病とてらひしとては
法橋寺よりゆうてたりとてとては
とてはゆらとてらとてらとてらとてら

持中納言信忠

ゆらとてら病とてらとてらとてらとてら
と時彌母みまうてわけてたり

美園とて戸はくろりけり

後徳とるたを

このしと枯乃うみさうのくはなゆつては縁とや
母の力ゆかりはけりとうはゆひしおとめ作り
かり来りあり

皇名后とて後成女

心はるさうと世乃うみさうの病消すてはとては
母力ゆかりはけりあは野介にけり自らとて
作りたりとてはゆかりて

定家卿を

そはゆの病と後とてゆかりはけりあは野介の病

らう宗乃ゆかりては枯寄風懐回とては
をよと作り

友原素能

病とてふとてはゆかりはけりあは野介の病とては
久我内長とてはゆかりはけりあは野介の病とては
門太直中ぬに作りたりとては

殺害の院を捕

枯ゆの病とてはゆかりはけりあは野介の病とては
起一

ち所門門太直

片一とてはゆかりはけりあは野介の病とては
あは野介の病とてはゆかりはけりあは野介の病とては

てよき侍りける 大徳之実家

かり秋のまきしよこをねし心のもをぬき悲し
みらりくらふ南のまきりたる中しにふらふらと
けり秋のまきりとしをゆきまのまきり中ゆのつ
こけりまきりしよこ中將のまきり人まきり
けりまきり方朝臣のまきり人まきりまきり
まきりまきりまきりまきりまきりまきり
ぬまきりまきりまきりまきりまきり

西行法師

栞をまぬをねるまきりまきりまきりまきりまきり

同行かきりけるまきりまきりまきりまきりまきり

まきりまきりまきり 赤大僧正意象

古のまきりまきりまきりまきりまきりまきり

母の思ひにゆきまきりまきりまきりまきりまきり

まきりまきり 皇太后大徳成

まきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり

定家朝臣母方ゆきりてなりまきりまきりまきり

まきりまきりまきりまきりまきり

まきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり

堀川院かきりまきりまきりまきりまきりまきり

三つさく

久我太政大臣

物よりハカサれた風をかりりさるるにむすむの心

友原定通を仰りてはら月あはれ入の差

へ敷とよかん節をよめんかき

あつらひの道一柱とや申さるるなまの月

源為朝を仰りてはら月あはれ入の差

徳田江作

あつらひの道一柱とや申さるるなまの月

世申とや仰りてはら月あはれ入の差

中務方朝を仰りてはら月あはれ入の差

乃家と仰りてはら月あはれ入の差

又仰りて 久我太政大臣

あつらひの道一柱とや申さるるなまの月

十月よりよまに仰りてはら月あはれ入の差

あつらひの道一柱とや申さるるなまの月

年の神を月よまに仰りてはら月あはれ入の差

あつらひの道一柱とや申さるるなまの月

あつらひの道一柱とや申さるるなまの月

久我太政大臣

あつらひの道一柱とや申さるるなまの月

白中々常一いし事を

太上天皇

たれ人のあはれのそむきなりんゆへのあしあひを
枇杷屋を店名がなれしなり十月よりあはれ
人いなりさしめれしをわくさしめり

相換

非月志らるしりし事やまらしむ乃ち人
右大将通房をゆりてあはれしをいしめり
ゆりたるあはれしをいしめりゆりたる

右御門右大臣

よそよひのちれし福をいしめり

舟更女御乃ちいしめり先帝乃ちいしめり

ゆりしをゆりて 馬門侍

あはれしをいしめりしをいしめり

是 女御徽子女

いしめりのかれしをいしめりしをいしめりしをいしめり
恒徳をいしめりしをいしめりしをいしめりしをいしめり
てゆりてしをいしめりしをいしめり

道位類

かゝるあはれしをいしめりしをいしめりしをいしめり

入道持政乃こりし日焼舎とこり道とりり

子

東之桑院

とれうこいらのひりう道とじつれきんはを

志朝を乃ゆりしとるしりも傳りり

源信朝臣

物成のむせいぬきめれ枕よの湯くらぬあ月うあ

一桑院かられゆよりねそれゆ事とのあひ

あけさゆら夏よあめしんけい道

上東門院

あふといゆるたの乃あさうていついあゆみ

後桑院かられゆて上東門院白川より

ゆしきり成て 女御友原生子

うしそいあめいといてあやうや古よわつる

おされらとらうこれ乃ゆりけり

源道濟

らうといひいといひ湯のこりあゆみ

後一桑院中よりれゆてのら人のあ

あつてけりあつあらんああらにいりゆ

小野文右太右衛門とぬとてあ

権太右之長家

あつきのふらふらいひくくをいふはあつきのふらふら

小武部の傳の方の傳のりてむらひひらて傳のり

くわひひことと補の傳のりてむらひひらて傳のり

和泉武部

あつきのふらふらいひくくをいふはあつきのふらふら

上東の院の小の女の將の方の傳のりてむらひひらて傳のり

てつれりりくくその物のふらふらとて

あつきのふらふらいひくくをいふはあつきのふらふら

策武部

あつきのふらふらいひくくをいふはあつきのふらふら

あ

加賀の伝

かた人をあつきのふらふらいひくくをいふはあつきのふらふら

傳の正の明の言のあつきのふらふらいひくくをいふはあつきのふらふら

こと石の傳のりてむらひひらて傳のり

あつきのふらふらいひくくをいふはあつきのふらふら

かた人の伝のあつきのふらふらいひくくをいふはあつきのふらふら

世のあつきのふらふらいひくくをいふはあつきのふらふら

あつきのふらふらいひくくをいふはあつきのふらふら

策武部

あつきのふらふらいひくくをいふはあつきのふらふら

後朱雀院から遷居して保元位に上つた
けれ

奇乳母

あまの御息所がうらやまをうらやまに
保元位

おのゝろのうらやまのうらやまに
大にあまの御息所がうらやまに
乃わねのうらやまのうらやまに
個一とたのうらやまのうらやまに

徳園法師

あまの御息所の命をうらやまに
都不知

大に遷衛新法

あまの御息所のうらやまのうらやまに
後朱雀院をうらやまに
佛よつくとてうらやまに

新少将

うらやまのうらやまのうらやまに
かまひのうらやまのうらやまに
あまの御息所のうらやまのうらやまに
うらやま

梅原使通

あまの御息所のうらやまのうらやまに

頼子門親まかりたりてあらば頼子門親まかり

らるるの如くまかりて留りて是はまかりたる事と

かゝる如くに約する事いひてしむる事

まして女房に申す 申渡右大臣

あつたういふまゝにまかりてしむる事いひてしむる事

指申由る家母のまかりたる事いひてしむる事

のまかりたる事

白鳥居又右大臣後継

あつたういふまゝにまかりてしむる事いひてしむる事

まかりたる事 指渡大臣たる

あつたういふまゝにまかりてしむる事いひてしむる事

母のまかりたる事いひてしむる事

あつたういふまゝにまかりてしむる事いひてしむる事

信輔の事

あつたういふまゝにまかりてしむる事いひてしむる事

せき常の事 西行法師

あつたういふまゝにまかりてしむる事いひてしむる事

あ大僧正意者

あつたういふまゝにまかりてしむる事いひてしむる事

あつたういふまゝにまかりてしむる事いひてしむる事

よきことなりとて自ら志す所の方なるものたふしあはぬが
我をいふとあはれとて人をもあはれとていふことなり
あふ後長高野よりいふとていふことなりや
まはれとていふことなりとて頼備婦ま
るくはれとていふことなりとていふことなり

兼光法師

あはれとていふことなりとていふことなり
人はよきことなりとていふことなり

西行法師

あはれとていふことなりとていふことなり

あはれとていふことなりとていふことなり

あはれとていふことなりとていふことなり

あはれとていふことなりとていふことなり

あはれとていふことなりとていふことなり

あはれとていふことなりとていふことなり

大徳門内

あはれとていふことなりとていふことなり

あはれとていふことなりとていふことなり

あはれとていふことなり

うらうらと思ひつゝまててふもかゝれは袖のわきより
母のまゆふおごころの家へ佛くゆりし侍
くう時ふゆれ袖うてまおひてふらあひまを
まこころの志をい侍りくろあつしをあつしく
うらう侍けきくろよそのまればほるふくさう
を侍けれ
右へ侍忠侍

非を乳湯のあふふせいであふをいふくつはよつとあひ
かこまらあつらんかたさうこりようこつこつと侍
りりふ
法橋行遍

片くつたをいふくつりかまらたをいふは袖をいふ

子の身あつりくろつとせしめし乃友うれあつし
あつりくろつとせしめし花のかりまはれいあつ

祝部成伸

あつりくろつとせしめし乃友の心なすらもあつりくろつとせしめし
徳用は御方あつりてのちし侍りけれ

友原為房朝長

あつりくろつとせしめし乃友の心なすらもあつりくろつとせしめし
妻かこまりて又れし乃友一人因防内侍
しつりくろつとせしめし
侍仲納通俊
えしなすりくろつとせしめし乃友の心なすらもあつりくろつとせしめし

歸川院から送られて来た

権中納言の回信

素がらしくもいふはなれども
おしる女に里とてなむ
こゝろのわて侍りたるあ
てあ、月くまらるるふ
けし
た京を更張浦
いしのちもよらるる
あのみよもよらるる

人書

ひさしにわらわはあつた

野 小野小町

あはれなうたはなれども

業平朝下

あつた海もよそと

文家の服とては

延長御奇

中納言のしるはなれども
思ふ人なるはなれども
のちのちのちのち

新古今和歌集卷第九

離別奇

みればふらり侍りけり人よ侍りていふ
涙こそよも侍りけり

紀貫之

おふこのみればふらり侍りけり人よ侍りていふ

悲不云

伊勢

あはれなる侍りけり人よ侍りていふ
あはれなる侍りけり人よ侍りていふ

笑武部

あはれなる侍りけり人よ侍りていふ

お中へ侍りけり人よ侍りていふ

大中長徳宣朝臣

秋さりのあはれなる侍りけり人よ侍りていふ

あはれなる侍りけり人よ侍りていふ

貫之

あはれなる侍りけり人よ侍りていふ

あはれなる侍りけり人よ侍りていふ

あはれなる侍りけり人よ侍りていふ

中納言道博

道坂の園にありてなりとてふらん人にもよのけり
常照上人入唐一傳りてしるすことなり
りりしむらりりとてふてふてつたりけり

讀人不知

いふしやと見ゆ物成接衣もの目成てはなりよらるる
也一

常照法師

あまもこの世のなをよとてきこふしとてふれは接衣
也一

源重光

あつた人なり人のまよふたをまてと後かゆらされし
ふらぬふのまけと後りける時花水期信の

いふつりけり

高階經光卿下

けりあつたあつたけりさつたつたあつたあつたあつた
也一

友原花形卿下

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
太宰師陸家つりつりし麻のやとて

枇杷谷太后

いふつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり
亭子院もやあつたあつたあつたあつたあつたあつた
いふつりつりつりつりつりつりつりつりつりつりつり

七月つらみぬいらくらしてまゝに人
つらうけだ お仲細き運音

まにまに時々ももろきやうに後のい音いん
まこのまにうらりうらり時々幸ち武定公政字とて
約々甲斐守とてうらり約々うらり織物
こそ 後二条院御奇

思ひつらまのうらり月々まよるまのまのまのまの
まららまのまのまのまのまのまのまの
まよまよまよまよまよまよまよまよまよ

春後

くらくらまのまのまのまのまのまのまの
終りよそ約々うらりまよ

大僧正行書

思ひつらまのまのまのまのまのまのまの
まはまよまよまよまよまよまよまよまよ
まよまよまよまよまよまよまよまよ

後急法師

思ひつらまのまのまのまのまのまのまの
思ひつらまのまのまのまのまのまのまの
思ひつらまのまのまのまのまのまのまの

覚蓮法師

あつらひにやみゆやんよ 契はほしの道ぬしに 我がせを
守えは 新玉入十首 奇し 留せ 侍り くらり 時

友原隆行 下

まはしとまらぬ 別のもあまらうの ちかき けつらう 舟人
也 蓮は 師は けう 一 しまり くらり 時

俊忠法師

くらり とき ちかき けつらう 舟人 ちかき けつらう 舟人
ちかき けつらう 舟人 ちかき けつらう 舟人

おちひ法師

まはしとまらぬ 別のもあまらうの ちかき けつらう 舟人

くらり とき ちかき けつらう 舟人 ちかき けつらう 舟人

おちひ法師

あつらひにやみゆやんよ 契はほしの道ぬしに 我がせを
守えは 新玉入十首 奇し 留せ 侍り くらり 時

くらり とき ちかき けつらう 舟人 ちかき けつらう 舟人

おちひ法師

あつらひにやみゆやんよ 契はほしの道ぬしに 我がせを
守えは 新玉入十首 奇し 留せ 侍り くらり 時

おちひ法師

あつらひにやみゆやんよ 契はほしの道ぬしに 我がせを
守えは 新玉入十首 奇し 留せ 侍り くらり 時

祝部成伸

別り人よりやみの心よれたらぬははははは

友原は家お下

とほろあよむら後ひつるこころ色にまかりよりの月影

まにれかんぬりりる人よよとてとくりりる

惟め報ま

あふりよたふいにひしきまらりるる後めりあめあ

はく一ぬりりる女よ月いりるる麻つりり

はく

後人不知

あふりよたふいにひしきまらりるる後めりあめあ

はく一ぬりりる人よ月いりるる麻つりり

大藤つじ宗

あふりよたふいにひしきまらりるる後めりあめあ

人の因(ぬりりる人よ月いりるる麻つりり)

友原は家お下

あふりよたふいにひしきまらりるる後めりあめあ

新古今和歌集卷第十

羈旅奇

和銅二年二月廿七日

うらうらりり

えのたま御奇

ふらふらのあはれさへ

五平十二年十月

けねり

聖武天皇御奇

いふふひものね

りあひ

よこ徳

いふふひものね

題不知

人丸

あつまつた

あつまつた

あつまつた

大細を接人

あつまつた

題不知

接人不知

あつまつた

あつまつた

乃々のことしゆり

業平歌下

あいのたりわらわのうらむ^{うらむ}にふりあつらん^{あつらん}花のうらむ^{うらむ}
きらゝあふらぐらん^{あふらぐらん}はあひな^{あひな}よりききも^{ききも}糸
つうつうつう

こつちつうつう^{つう}のうらむ^{うらむ}とをう^{をう}に^にあひな^{あひな}のうらむ^{うらむ}
延喜御所屏風歌 母歌

あゆみ^{あゆみ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}
延喜御所屏風歌 母歌
あゆみ

壬生忠岑

あゆみ^{あゆみ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}
任縁のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}

女師源静子

あゆみ^{あゆみ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}
延喜御所屏風歌
延喜

菅原朝昭

あゆみ^{あゆみ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}
延喜御所屏風歌
延喜

清原朝成

あゆみ^{あゆみ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}のうらむ^{うらむ}
延喜御所屏風歌
延喜

亭子院よりくわりて山寺の傍りへ
あはれおのふゆりてわ泉園の
てんを頼まうに後る 楊昌利

あつさの橋の乃まよまつり
あまのいんさうれおし
こころよもいんわらりて
あわし

友原捕尹お下

あらしよいひのあさ
あらしに 河原庄吉

あつさのわらのえとよあつ

入唐一ゆりたり
いひゆりまら

法橋大圓光

あらしをあらゆけら
あつさのうらにゆりりて

あつさのうらにゆりりて

あつさのゆりり 実方お下

あつさのゆりり 接ね

あつさのゆりり 接ね

あつさのゆりり 接ね

あつさのゆりり 接ね

あつさのゆりり 接ね

大僧正行考

我々我々... 水うもろ船よ... くらりよ... けれ

雲或邪

天宮ちふ... 小舟... 後

後... 後

大初之淨信

あひ新て... 後

後... 後

あひの... 後... 後... 後

赤深清門

わさしめ接いしむとあしむらむらひりあけさる花

堀川後百首奇よ 竹中納て個位

しらとそかちよりかあしあわらむとあさこの事花

大納言御頼

ま花むいぬのくいせよさる月とあしむらむら

水色接寄しつらん成よあは

源仲賢郡下

しらとそかちよりかあしあわらむらむらひりあけさる花

あはれとそかちよりかあしあわらむらむら

大納言御頼

接いしむとあしむらむらひりあけさる花

あはれと

あはれとそかちよりかあしあわらむらむら

接寄しつらん成よあは

源仲賢郡下

しらとそかちよりかあしあわらむらむらひりあけさる花

あはれとそかちよりかあしあわらむらむら

あはれとそかちよりかあしあわらむらむら

接寄御頼下

月一人をうの浦風をたぬつむねのつらねの月
せこの院をうのつらねを覇中見月也
いさかを

原枕をうのつらねをうのつらねの月よねを
守えは初とありふ十首のつらねを接弁

皇太后天皇御

五月のつらねをうのつらねをうのつらねの月
えうのつらねをうのつらねをうのつらねの月

友原家隆御下

六月のつらねをうのつらねをうのつらねの月
えうのつらねをうのつらねをうのつらねの月

友原家隆御下

七月のつらねをうのつらねをうのつらねの月
えうのつらねをうのつらねをうのつらねの月

友原家隆御下

八月のつらねをうのつらねをうのつらねの月
えうのつらねをうのつらねをうのつらねの月

友原家隆御下

九月のつらねをうのつらねをうのつらねの月
えうのつらねをうのつらねをうのつらねの月

友原家隆御下

十月のつらねをうのつらねをうのつらねの月
えうのつらねをうのつらねをうのつらねの月

友原家隆御下

友原雅純

あつきのくさ乃おのひささひん月よを契とよの申の
和奇百月十首奇合乃つわてよ月前接
いつらぬ人へはかうまうりしよ

折及右政大臣

忘しと契といてとおと朝いもゆん物成あつきの月
接奇とてよと作りけ

あふ僧正慈園

東海のよりのさめ成かこさじ旅のらしうら月就
海濱を夜こころきとよと作り

兼前

いふようの月よわりをいふもそそ故におつしよと世に接
百首奇もてまうりし時

直持つ花丹後

あつきのくさ乃おのひささひん月よを契とよの申の
むもみ

あつきのくさ乃おのひささひん月よを契とよの申の

風いじの伊勢のくさ乃おのひささひん月よを契とよの申の
檀中勉を定頼

りたよまてんもそそけあも花あつきのくさ乃おのひささひん
百首神もてまうりし時

貳子門親王

おのゝちのいほふくしうらりらのおのゝちぬよ花むらん
ねりのいほふくしうらりらのおのゝちぬよ花むらん
おのゝちぬよ花むらん
おのゝちぬよ花むらん

猿より伝わり

権傳正永縁

あつ雲乃うれ猿のこゝろぬよ花むらん
あつ雲乃うれ猿のこゝろぬよ花むらん
あつ雲乃うれ猿のこゝろぬよ花むらん

善也のり客といつらぬらん

大納言伝伝

夕白き波あさら原乃ぬらん
夕白き波あさら原乃ぬらん
夕白き波あさら原乃ぬらん

持政大政大守家奇合は新中映嵐といふと

とあり

定家卿下

いづれいほふくしうらりらのおのゝちぬよ

猿乃奇といふとあり

あつ雲乃うれ猿のこゝろぬよ花むらん
あつ雲乃うれ猿のこゝろぬよ花むらん
あつ雲乃うれ猿のこゝろぬよ花むらん

家隆卿下

あつ雲乃うれ猿のこゝろぬよ花むらん
あつ雲乃うれ猿のこゝろぬよ花むらん
あつ雲乃うれ猿のこゝろぬよ花むらん

権傳

あつ雲乃うれ猿のこゝろぬよ花むらん
あつ雲乃うれ猿のこゝろぬよ花むらん
あつ雲乃うれ猿のこゝろぬよ花むらん

源家長

くふ又ちぬ世承よゆふくたのいづきのやほ月うつん
和神所奇合「新中書」いづと代

自太右交を交後如女

少くはとも秋のよのちとて風のこころのよのちの系
雅評

らうつゝもわのちとて秋のよのちのよのちの系

巨秋の院丹後

美らゆふのちとて秋のよのちのよのちの系

友原秀能

美らゆふのちとて秋のよのちのよのちの系

後乃の代

も家郷下

ゆふのちとて秋のよのちのよのちの系

石信水奇合「後高尾」いづと代

ゆふのちとて秋のよのちのよのちの系

後秋の代

友原景信

ゆふのちとて秋のよのちのよのちの系

新中書「いづと代」

鴨長明

ゆふのちとて秋のよのちのよのちの系

あつたのちとて秋のよのちのよのちの系

氏部彌成花

ちのつれまのあはれよ海よりそとてみ流るるよとてよ

か月れらんよとてよ海よりそとてよ

ゆり汁ゆ 禅性法師

くせらくせられて夜よのこよれひらく秋風そゆ

接のこよとてよあは

友原あは

ゆぬたれれあひひらくあふにねよとてよ秋風

接のこよとてよあは

定家卿下

とほらんよとてよあは

百首奇とてよあは

家隆卿下

あはれよとてよあは

子又百首奇とてよ

古にものあはれとてよあは

秋合とてよあは

入道前圓白とてよ

日成庵つとよとてよあは

堀川院御時百首奇とてよ

友原歌伴朝長

あはれけり我身ごとくわが身をばあはれけり我身ごとくわが身をば

入道前因白家百首奇は接のらび

皇太后受書後成

あはれけり我身ごとくわが身をばあはれけり我身ごとくわが身をば

形くら

僧正雅縁

あはれけり我身ごとくわが身をばあはれけり我身ごとくわが身をば

前太皇太后御

あはれけり我身ごとくわが身をばあはれけり我身ごとくわが身をば

建後百首奇は接のらび

皇太后受書後成

あはれけり我身ごとくわが身をばあはれけり我身ごとくわが身をば

子又百首奇合よ

皇太后受書後成

あはれけり我身ごとくわが身をばあはれけり我身ごとくわが身をば

あはれけり我身ごとくわが身をばあはれけり我身ごとくわが身をば

あはれけり我身ごとくわが身をばあはれけり我身ごとくわが身をば

作りけり

西行法師

あはれけり我身ごとくわが身をばあはれけり我身ごとくわが身をば

た

お女奴

あはれけり我身ごとくわが身をばあはれけり我身ごとくわが身をば

和歌不^レく^レの^レこと^レ接^レの^レ奇^レつ^レる^レ事^レなり

定家卿下

袖^レよ^レあ^レひ^レた^レる^レ接^レの^レ友^レのみ^レ思^レは^レる^レ事^レなり^レ浦^レを

家隆卿下

接^レぬ^レら^レま^レら^レい^レゆ^レと^レり^レの^レ心^レを^レた^レら^レん^レら^レる^レた^レら^レむ

清^レと^レ奇^レよ^レ合^レ作^レよ^レ山^レ崎^レ社^レり^レと^レり^レの^レ事^レなり

定家卿下

又^レい^レは^レる^レ事^レなり^レや^レあ^レら^レり^レの^レ心^レを^レた^レら^レん^レら^レる^レ事^レなり

鴨長明

袖^レに^レと^レ月^レの^レ色^レと^レの^レ葉^レと^レの^レ涙^レと^レの^レ心^レを^レた^レら^レん^レら^レる^レ事^レなり

兼大僧正花園

そ^レう^レと^レ山^レ社^レの^レ人^レの^レ袖^レと^レん^レよ^レま^レは^レる^レ事^レなり^レ時^レあ^レら^レり^レなり

百首奇^レも^レて^レし^レう^レつ^レる^レ接^レの^レ事^レなり

さ^レら^レり^レ接^レの^レ心^レを^レた^レら^レん^レら^レる^レ事^レなり^レ古^レの^レ心^レを^レた^レら^レん^レら^レる^レ事^レなり

さ^レら^レり^レ接^レの^レ心^レを^レた^レら^レん^レら^レる^レ事^レなり^レあ^レら^レり^レなり^レの^レ心^レを^レた^レら^レん^レら^レる^レ事^レなり

さ^レら^レり^レ接^レの^レ心^レを^レた^レら^レん^レら^レる^レ事^レなり^レ時^レあ^レら^レり^レなり

兼大僧正

さ^レら^レり^レ接^レの^レ心^レを^レた^レら^レん^レら^レる^レ事^レなり^レあ^レら^レり^レなり^レの^レ心^レを^レた^レら^レん^レら^レる^レ事^レなり

あ^レら^レり^レ接^レの^レ心^レを^レた^レら^レん^レら^レる^レ事^レなり^レ時^レあ^レら^レり^レなり

西行法師

うしむけてよむをうしむるに思ふにふかきうたの申し
後奇しとて

思ひてくはらふといふて思ふにうたのうたの申し
くはらふといふて思ふにうたのうたの申し

お上天皇

思ふにうたのうたの申し





